

議題4 名勝洗足池公園の文化財活用事業について

1. 令和5年度事業報告

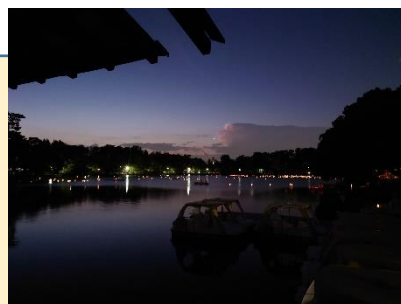
(1) 行事視察報告

▶ 妙福寺「洗足池灯ろう流し」

日時：7月16日（日）19:00～20:00

写真・動画撮影

報告：約2,000名来園、灯籠は約400個。



▶ 千束八幡神社「例大祭」

日時：9月2日（土）～3日（日）終日

写真撮影（撮影は11:00～12:00ごろ）

報告：境内とその周辺に屋台、長原から大岡山まで広い範囲でお神輿行列などを開催。



(2) 展示報告

▶ 大田区立郷土博物館開催ロビー展示

「洗足池周辺の遺跡たち」

期間：7月25日（火）～9月24日（日）

場所：郷土博物館1階ロビーケース

内容：洗足池公園周辺から出土した遺跡の解説と遺物を展示した。千束八幡神社の恵良宮司と恵良委員にご来館頂いた。



(3) 郷土博物館HPコンテンツ「文化財寄稿集」の追加【別紙資料1】

▶ 名勝洗足池公園コーナーの追加

「5、勝海舟と旧清明文庫」

「6、中原街道と景勝地洗足池」



(4) **新規事業**：「旅するシリーズ」ルートマップの作成【別紙資料2】（校正中）

①「洗足池～九品仏浄真寺～等々力溪谷 2区の名勝を巡る編」

②「洗足池～池上本門寺 日蓮の伝承編」

製作の目的と効果

- ▶ 基本方針②活用【施策１・３】に基づく施策
- ▶ 第２回協議会 島田委員長より「名勝」周知のため「旅する～」資料の提案
- ▶ 勝海舟記念館などで、池上本門寺への道順を質問する方が多い
→付近の文化財も含めた回遊性の向上
- ▶ 洗足池駅南側への人流誘導

2. 令和６年度事業予定

- (1) 「文化財寄稿集」「マップ」等 HP コンテンツ・無料配布資料の作成・公開
- (2) 各種催事への協力・参加・視察
 - ①区役所主体事業：「春宵の響き」への協力、「子どもガーデンパーティ」の視察
 - ②寺社主体：「灯ろう流し」、「千束八幡神社例大祭」など
 - ③商店街主体：「ほとり市場」（マルシェ）
- (3) 世田谷区「等々力溪谷」（生涯学習課文化財係）との連携
ただし現在、等々力溪谷が倒木と樹木調査のため一部閉鎖しており、時期は未定
- (4) 「名勝」周知のミニ展示など
洗足池図書館２階廊下ウォール展示 令和６年６月１４日（金）～７月１０日（水）
（仮題）「東京都指定名勝 洗足池公園―「名勝」と洗足池公園の魅力―」

3. 調査報告 全国の池月・磨墨伝承

【別紙資料３】参照

4. 文化財アピールポイントのご意見交換（第４回）

【コンセプト】

地元の皆様が考える「洗足池公園や周辺でアピールしたい文化財・歴史はなにか？」「どんなことを知りたい、やってみたいか？」

【目的と内容】

名勝洗足池公園の「歴史文化要素」について、協議会委員のみなさまに率直なご意見を伺い、保護・活用の方法を模索していきます。

所在地：①勝海舟記念館：南千束2-3-1 ②勝海舟夫妻墓所：洗足池公園内

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩6分

① 勝海舟記念館開館時間：10：00～18：00 休館日：月曜日（詳細は右二次元コード）

② 勝海舟夫妻墓所：常時公開



勝海舟夫妻墓所



勝海舟記念館（旧清明文庫）

勝海舟（以降、海舟）は新政府軍が江戸に進軍した際、薩摩藩邸における西郷隆盛との会見を含め、江戸城無血開城を実現させたことなどで有名です。海舟は会談のため池上本門寺へ向かう途中、洗足池で休息をとったところ、その景観を気に入り、池畔（現在の大森第六中学校の位置）に「洗足軒」という別荘を建てました。その後、海舟の「洗足池の畔に葬ってほしい」との遺言どおり、洗足軒の裏に生前自ら用意していた墓所へ埋葬され、のちに青山墓地から改葬された妻のたみ（民子）のお墓とともに、現在、区指定史跡「勝海舟夫妻墓所」として公開されています。

そのすぐ脇には、明治12年（1879）に海舟が私費で建立した西郷南洲留魂詩碑、海舟と西郷をしのぶ詩が刻まれた徳富蘇峰詩碑（両雄詠嘆之詩碑）、数々の名士が賛同して奉納された水盤などの石造物が残っており、海舟の人望や様々な人物との交流が伺えます。

大正9年（1920）、海舟の遺蹟の保存と図書収集・閲覧を目的とした財団法人清明会が発足し、海舟の遺族から洗足軒とその隣地の寄贈を受けると、昭和3年（1928）に講堂兼図書室を建て、同8年に「清明文庫」として開館させました。建物の外観はネオゴシックスタイル、内部はアールデコ調の彫物やモザイクタイルが目目をひく洋風の建築で、平成12年（2000）に国登録有形文化財に指定されました。平成24年（2012）には大田区が土地を取得し、令和元年（2019）に勝海舟記念館としてリニューアルオープンしました。記念館では、昭和初期の会館建築とともに、豊富な海舟関連の資料を見ることが出来ます。

なかはらいどう せんぞくいけ 中原街道と景勝地洗足池

名勝洗足池公園-⑥

所在地：都名勝洗足池公園（南千束2-1-4他）

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩1分

公開の有無：常時公開（寺社・公共施設を除く）

洗足池が全国的に有名になったのは、江戸時代に中原街道が江戸と平塚中原をつなぐ東海道の脇街道として多数の庶民や商人に利用されるようになってからです。当時はとくに農産物の運搬に利用されました。

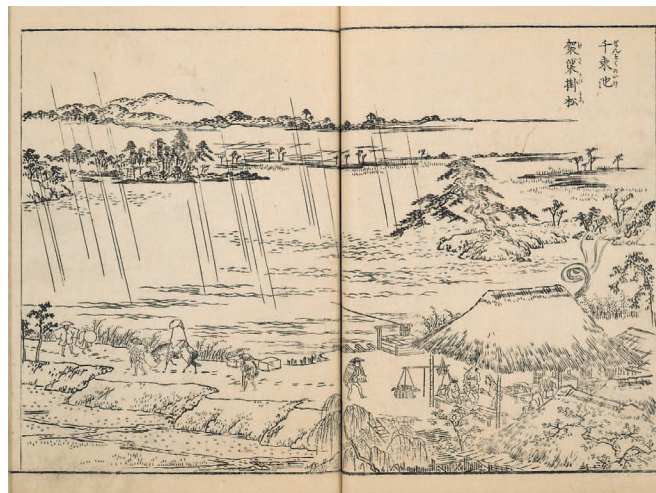
そのうち景勝地として多くの人々に知られるようになり、複数の伝承とともに名所の一つとして多くの地誌や

紀行文、浮世絵にもとりあげられました。とくに天保7年（1836）刊行の『江戸名所図会』^{えんどうめいしょゑ}「千束池^{せんぞくいけ}袈裟掛松^{けさかけあんせい}」や安政3年（1856）刊行の歌川広重『名所江戸百景』^{うたがわひろしげ}「千束池^{せんぞくいけ}袈裟懸松^{めいしょえどひやつけい}」が有名です。

また、プロイセン王国の全権使節オイレンブルクは日記『日本滞在記』（安政4年[1857]）のなかで「（洗足池のほとりに）は）田舎風の茶店が二つ三つ、水の中に突き出て建てられているのは美しく、水には緑の木の梢がどの角度からも映って見える。この場所は実に愛すべき平和なものだったので、われわれはしばしば遠乗りの行先と決めたものだった」と記しており、洗足池の景観が当時から風光^{ふうこう}明媚^{めいび}であったことがわかります。

一方で、中原街道の沼部・石川・千束（いずれも旧村名）付近は急坂が多く、交通の難所となっていました。そこで大正6～12年（1917～23）に工事が実施され、その完了を記念して建立された「中原街道改修碑」が、洗足池の中原街道沿いに建っています。

昭和2年（1927）には洗足池ボート場が運営開始され、チンカラ園（昭和25年ころ閉鎖）という日本最古の有料遊園地が開園するなど行楽地として賑わいました。現在も、ボート乗り場をはじめ、公園全体を多くの来園者が憩いの場として利用しています。



「千束池袈裟掛松」『江戸名所図会』
（郷土博物館蔵）



「千束の池袈裟懸松」
『名所江戸百景』
（郷土博物館蔵）



中原街道改修碑



旅する洗足池～等々力溪谷

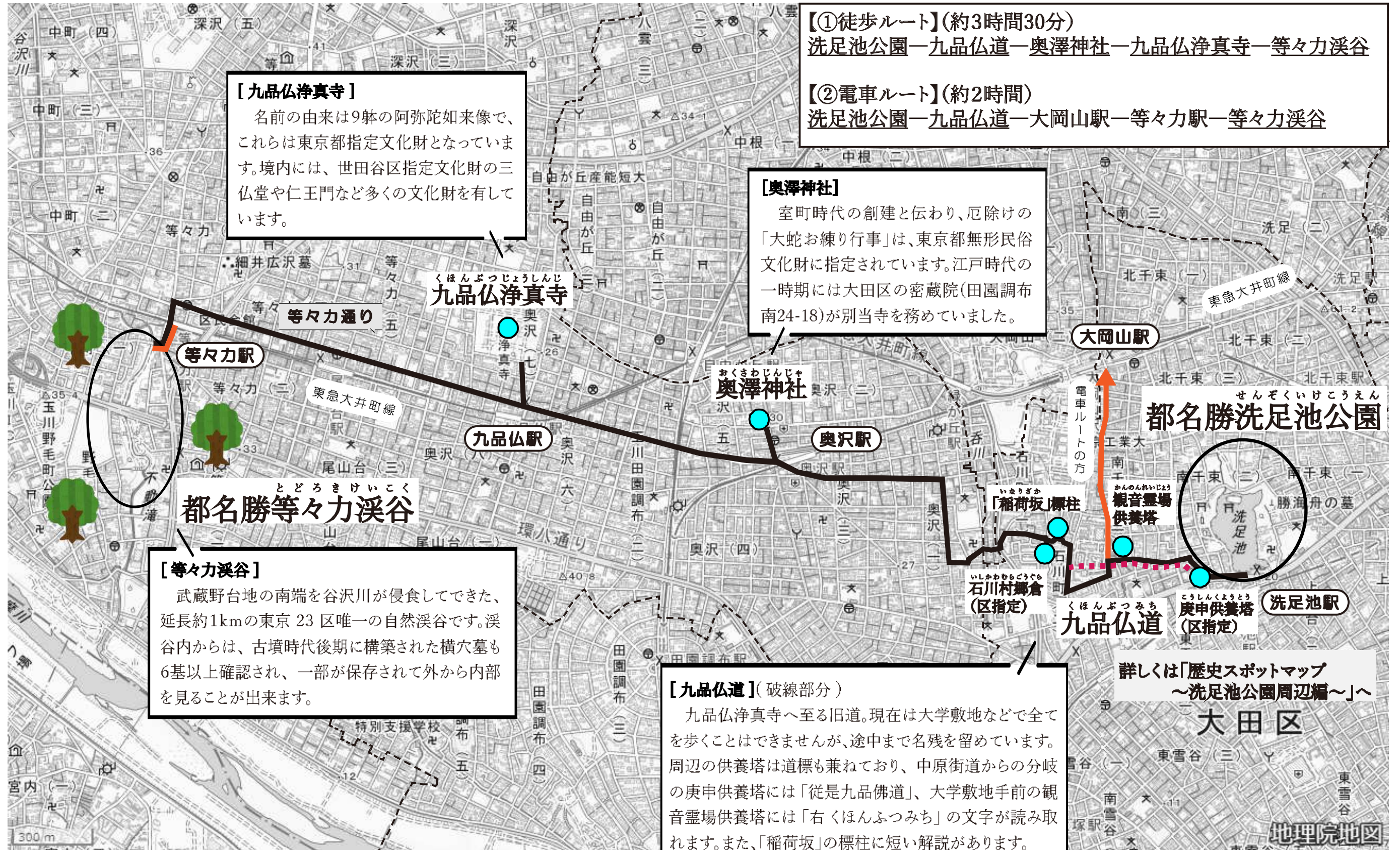


2区の名勝を巡る 編

【都指定名勝】

名勝とは「我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」で、保護していく文化財の一つです。

大田区と世田谷区には、近接して洗足池公園と等々力溪谷という都指定名勝が位置しています。これらを旅して、その歴史や景観を体感してみてください。



【九品仏浄真寺】
名前の由来は9軀の阿弥陀如来像で、これらは東京都指定文化財となっています。境内には、世田谷区指定文化財の三仏堂や仁王門など多くの文化財を有しています。

【①徒歩ルート】(約3時間30分)
洗足池公園—九品仏道—奥沢神社—九品仏浄真寺—等々力溪谷

【②電車ルート】(約2時間)
洗足池公園—九品仏道—大岡山駅—等々力駅—等々力溪谷

【奥沢神社】
室町時代の創建と伝わり、厄除けの「大蛇お練り行事」は、東京都無形民俗文化財に指定されています。江戸時代の一時期には大田区の密蔵院(田園調布南24-18)が別当寺を務めていました。

【等々力溪谷】
武蔵野台地の南端を谷沢川が侵食してできた、延長約1kmの東京 23 区唯一の自然溪谷です。溪谷内からは、古墳時代後期に構築された横穴墓も6基以上確認され、一部が保存されて外から内部を見ることが出来ます。

【九品仏道】(破線部分)
九品仏浄真寺へ至る旧道。現在は大学敷地などで全てを歩くことはできませんが、途中まで名残を留めています。周辺の供養塔は道標も兼ねており、中原街道からの分岐の庚申供養塔には「従是九品佛道」、大学敷地手前の観音霊場供養塔には「右くほんぶつみち」の文字が読み取れます。また、「稻荷坂」の標柱に短い解説があります。

せんぞくいけこうえん
都名勝洗足池公園

とどろきけいこく
都名勝等々力溪谷

詳しくは「歴史スポットマップ
～洗足池公園周辺編～」へ

大田区

地理院地図

(下図：国土地理院 Web 標準地図)



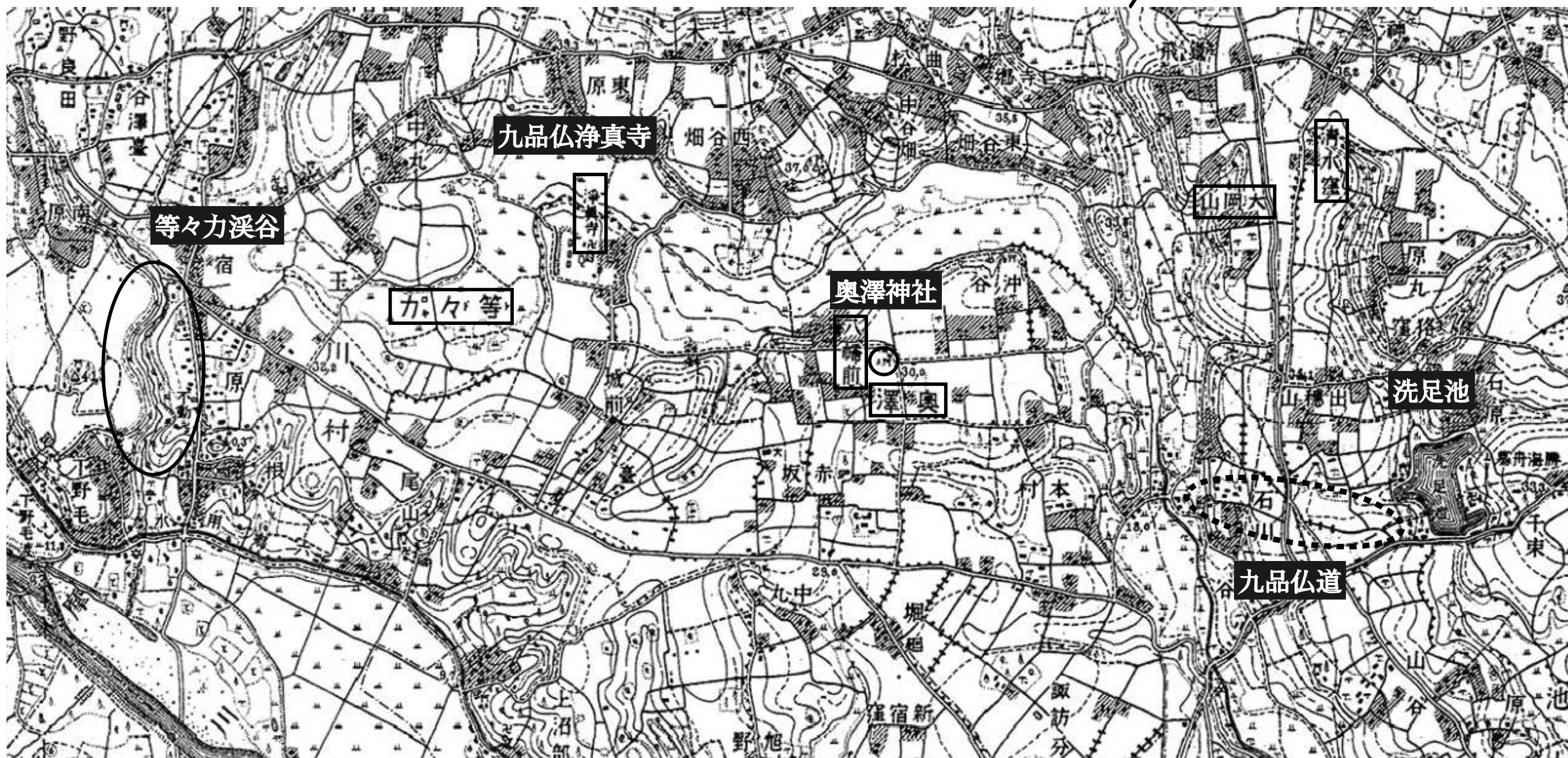
旅する洗足池～等々力溪谷

2区の名勝を巡る 編



都内の指定名勝は、江戸時代の大名や近代の名士の庭園が多く、洗足池公園と等々力溪谷のように自然景観に由来する場所は数か所しかありません。この2つの名勝が近接して立地しているということから、この周辺が武蔵野台地と多摩川が形成する自然豊かな土地であったことがわかります。

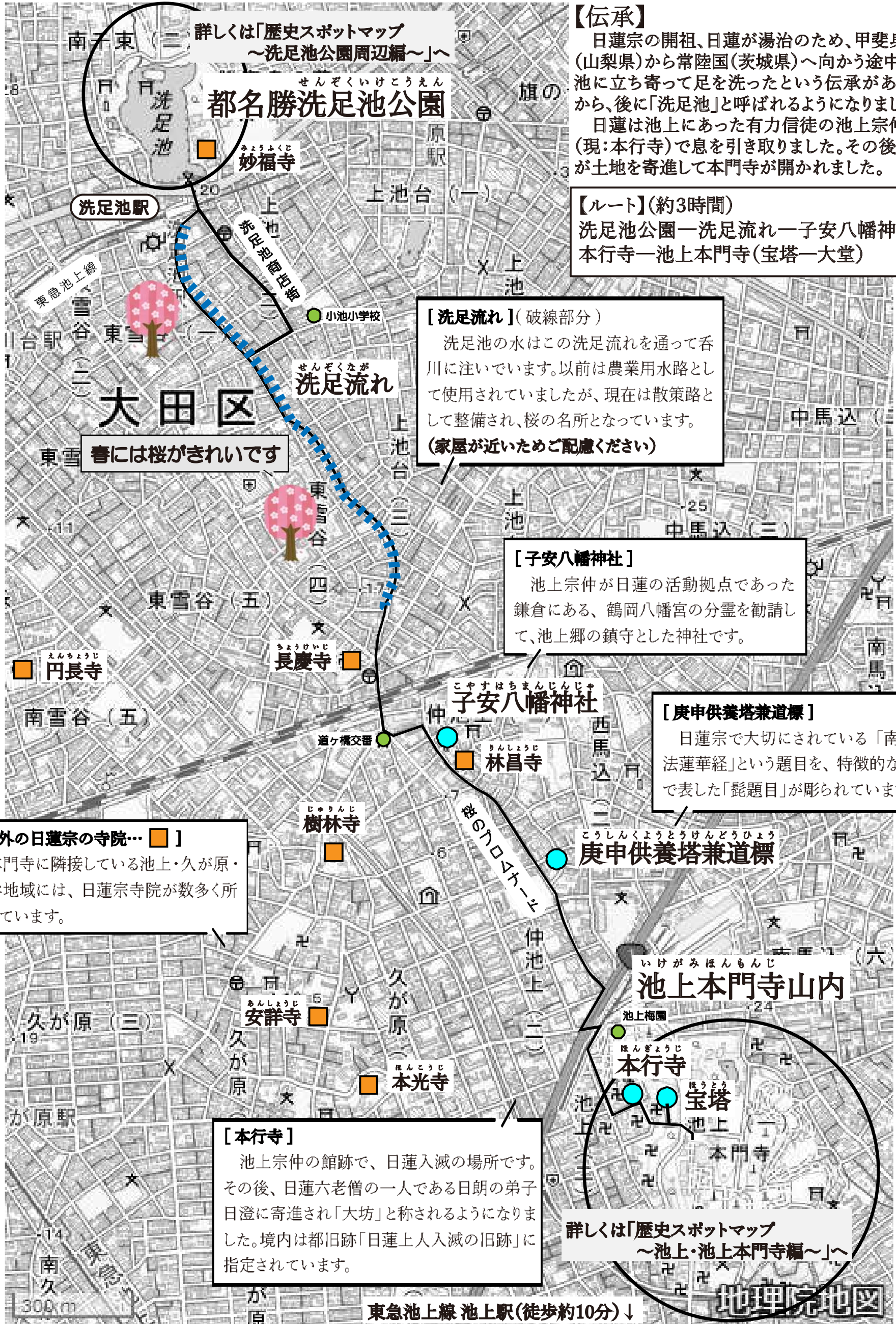
大正期の地図 *表面の現在の地図や地形と見比べてみましょう!



(下図:「今昔マップ on the web」首都圏 1917-1924 年データ)

旅する洗足池～池上本門寺

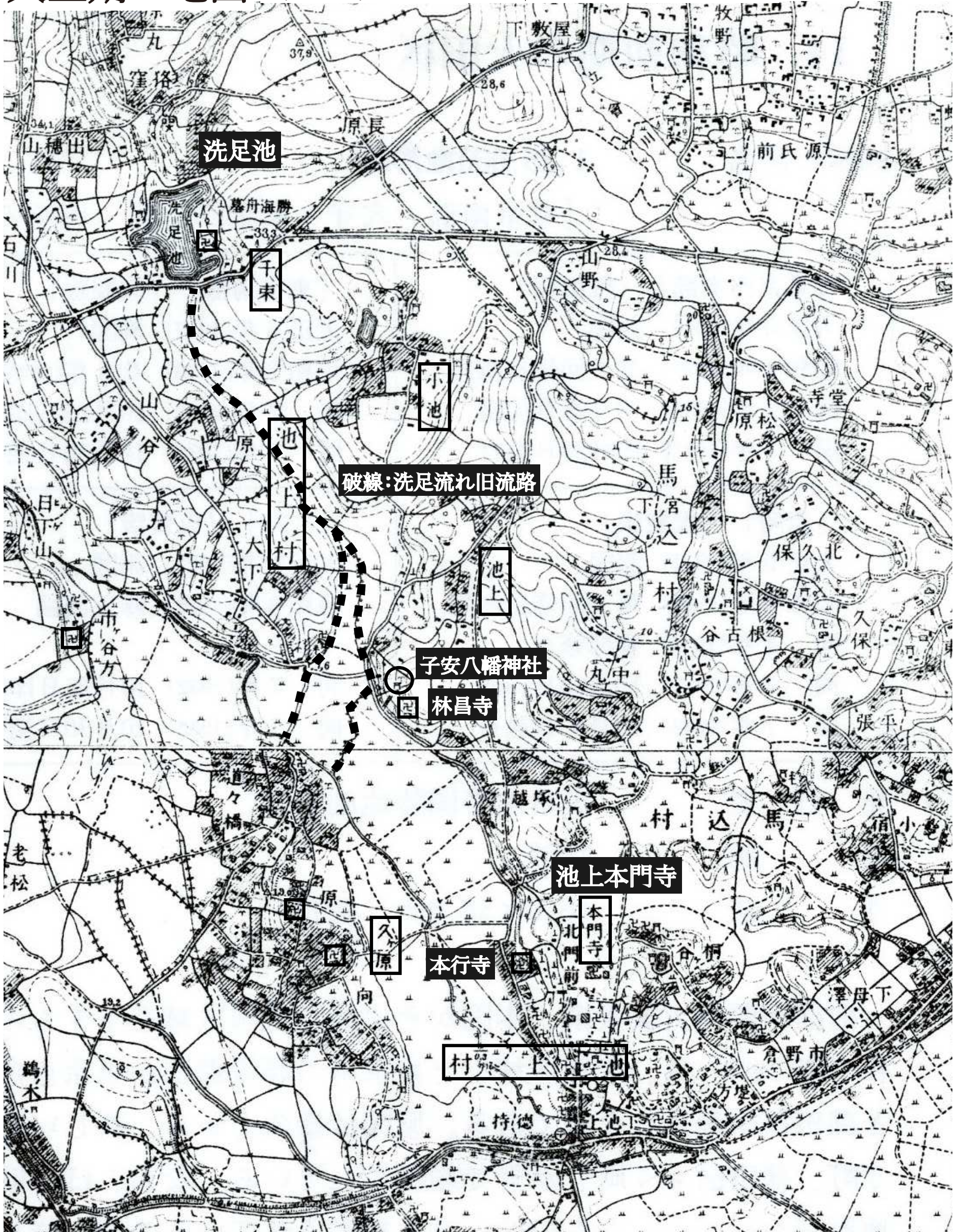
日蓮の伝承 編



(下図：国土地理院 Web 標準地図)



大正期の地図 *表面の現在の地図や地形と見比べてみましょう！



＜池月・磨墨伝承の調査報告について＞

洗足池には、源頼朝が当地で得たという名馬「池月」の伝承があり、馬込には名馬「磨墨」の伝承も残っています。両馬の伝承は全国にあることが知られていることから、全国事例の内容を把握し、洗足池の伝承と比較するために、令和4年12月から令和5年12月にかけて、全国の池月・磨墨の伝承を収集しました。今回は現時点の調査結果を報告します。

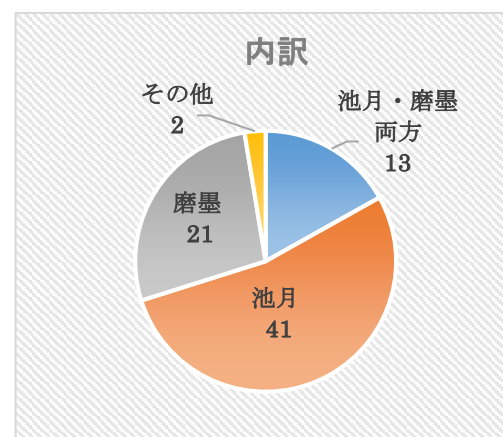
①総数：77件（令和5年12月時点）

内訳右図

②分布傾向（右ページ図）

池月・磨墨伝承ともに全国に分布することがわかりました。大田区のように、同じ土地に両馬の伝承がある地も複数あります。

また、磨墨に関する伝承は特に梶原氏とゆかりのある地に多くみられました。馬込は馬込城跡（埋蔵文化財包蔵地）や萬福寺（南馬込1-49-1）に梶原家関連の遺跡や文化財が多く残っています。



③全国の伝承の特徴

全国の伝承には、土地ごとの特徴がみられ、以下に分類することができました。

- ア「牧」：牧畜が営まれ良馬を産してきた地。馬産がさかんであった土地。
- イ「自然環境（水辺・山谷）」：龍が住むなどとの伝承がある水辺と、馬の鍛錬に適した山谷が接する土地。水辺や山、岩石が奇観をなす風光明媚な地。
- ウ「鎌倉武士とのゆかり」：源頼朝あるいは鎌倉幕府御家人とのゆかりがある地。
- エ「その他」

内訳（重複あり）：ア 19件、イ 32件、ウ 32件、エ 20件

④洗足池・馬込の伝承の特徴

③の分類からみると、大田区内の池月・磨墨伝承は、以下のタイプに該当します。

- 千束・池月（洗足池）：イ「自然環境」・ウ「鎌倉武士とのゆかり」
- 馬込・磨墨：（ア「牧」）・（イ「自然環境」）・ウ「鎌倉武士とのゆかり」

これらの結果から、洗足池・馬込は、全国にもみられる池月・磨墨伝承の土地の特徴をほぼ兼ね備えているといえます。また、全国には池やその他水辺から良馬が出るという伝承も多いことから、洗足池（水辺）と名馬池月との密接な関係を確認できました。

さらに詳しく調査し、洗足池公園関連事業の際にその結果を公開していく予定です。

池月・磨墨伝承：1180年（治承4年）に石橋山の戦いで敗れた源頼朝は、安房（千葉県）から源氏再興の戦のため鎌倉へと向かう道中、洗足池に立ち寄りしました。そこで、たくましい馬が現れたためとらえたところ、その斑点が池に映る月影のようであったことから「池月」と名付け愛馬としました。また、馬込は「磨墨」という黒色の愛馬の生没地であるという伝承があります。

1184年（寿永3年）、木曾義仲と頼朝の弟範頼・義経が戦った宇治川の戦いでは、源頼朝から「池月」を与えられた佐々木高綱と、「磨墨」を与えられた梶原景季の先陣争いが繰り広げられたことが平家物語に記され、全国的に著名な馬となりました。



池月・磨墨伝承分布図